

証券投資の知識 小樽商大で講義

東証など開講

【小樽】日本証券業協会や札幌、東証などの9団体でつくる「証券知識普及プロジェクト」(東京)は、小樽商科大学で証券投資に必要な知識などをテーマにした講座「証券投資と金融リテラシー」を全国で初めて開講した。

札幌や東証の職員、東海東京フィナンシャル・ホールディングス(東京)の石

田建昭社長ら計14人が証券市場や証券会社の役割などについて講義する。少額投資非課税制度(NISA)

や個人型確定拠出年金(iDeCo)などを利用するのに欠かせない知識や応用力を身に付けてもらう。

3、4年生が対象の選択科目で19年度は計15回行い、2021年度まで実施する。

小樽商大ビジネススクールの斎藤一朗教授(金融論)は「現場の生の声を聞ける実践性の強い科目で、しっ

かりとした知識やスキルを学生に提供できる」と話している。

(前野貴大)

虚子没後60年 道内に足跡

近現代俳句をけん引したホトトギス派の俳人高浜虚子(1874~1959年)が今年没後60年を迎えた。北海道ホトトギス会顧問で札幌の俳人小西龍馬さんに、虚子と北海道のかかわりについて寄稿してもらった。

小西龍馬

△理学部は薫風楡の大樹陰▽

虚子の句が書かれた額装が北大理学部にある。本人の揮毫による額装は長年、理学部長室の壁に掲げられ、ノーベル化学賞を受賞した鈴木章北大名誉教授も「(理学部長室の額は)学生時代から覚えているが、どうしてここにあるのか?」と話題にしたことがあるそうだ。

北大理学部長室に直筆の揮毫

虚子は生前、息子の年尾が小樽高商(現小樽商大)に在籍したこともあり、たびたび北海道を訪れている。戦後の1948年6月、虚子や娘の星野立子、年尾、高野素十ら総勢15人が北海道を訪れた。一行は北大で行われた「北海道ホトトギス俳句大会」にも参加。「理学部は」の句は、その際に詠まれ、虚子の孫でホトトギス名誉主幸稲畑汀子編の「ホトトギス新歳時記」にも採用されている。ただ、理学部長室にある経緯がはつきりとしたのは、意外に最近のことだった。2015年、北大名誉教授の杉野目浩さんが同窓会誌の「特別寄稿」で明らかにした。杉野目さんの父で北大学長だった晴貞さんが、虚子と交流があり、その日記や書簡などから分かった。

それによると、「理学部は」の句は、北大での句会の合間に、構内を散策した虚子が、理学部長室で休憩した際に詠んだという。

70年前、6月の構内散策し詠む



北大理学部長室にある虚子の句とともに記念撮影する(右から)杉野目浩さん、稲畑汀子名誉主幸、廣太郎主幸。左端は筆者

当時、晴貞さんは理学部長だった。虚子訪問の数年後、北大を訪れた記念として、あらためて句の揮毫を虚子にお願いしたそうだ。虚子は鎌倉に居を構えており、晴貞さんの友人で虚子の高弟だった札幌の俳人鮫島交魚(じょうぎょ)が上京した折(54年)に鎌倉を訪ね、揮毫して

もらった。後日、北大学長となる前に晴貞さんが表装して、理学部長室に飾ったということだ。

北大の句会から70年後となる昨年5月、札幌で開かれた全道ホトトギス大会に、稲畑汀子名誉主幸と、その長男稲畑廣太郎主幸が北大を訪れた。日曜日だったが特別に理学部長室を開けてもらい、虚子の句と対面を果たし、全道大会ではそれぞれが虚子の句を詠んだ。

△邂逅の虚子の軸より風薫る

汀子▽

△楡新樹蝦夷に蒼天引き寄せて

廣太郎▽

△念ずれば大虚子立てる楡新樹

龍馬▽

虚子は札幌のほか、釧路、旭川、函館など全道各地を訪れている。句に詠んだ場所、句碑も多い。あらためて道内の虚子ゆかりの地を訪れ、北海道と虚子の関係が想像以上に大きいことに気づいてもらいたい。そして北海道俳句文化の向上につながればと期待している。

(こにし・りゅうま)北海道ホトトギス会顧問、北海道俳句協会顧問